

まるぎー

石垣市の女性と男性のひろば



No. 3
1995年12月

発行/石垣市総務部企画室女性行政係 〒907 石垣市美崎町14番地 TEL 09808-2-1243

題字 照屋優子

第4回世界女性会議NGOフォーラム北京

堂々発言・行動する世界の女性たち



▲「戦争マラリア問題」で石垣市から3人参加



▲折り鶴を折りつつマラリア問題を訴える



▲オープニングの北京オリンピックスタジアム約50,000人が集まった



▲NGOフォーラム北京のシンボルマーク



▲障害を持つ人々が開いたワークショップ



▲アジアテントでは、沖縄の古典舞踊が好評だった



平等・開発(発展)・平和



▲混雑する懷柔県のNGOフォーラム会場入口



▲さまざまなワークショップが開かれた



▲女性会議は、世界の人々の出会いの場でもある。



▲オープニングセレモニー

ミズニュース

受賞おめでとうございます



▲地域づくりアイデアコンペ国土庁長官賞に宮里テツさん、1日市長制まちづくり提言で。



▲リサイクル推進功労者等表彰・環境庁長官賞に石垣市婦人連合会(天久節会長)。古紙のトイレトペーパー商品化の取り組みで。



▲第11回八重山毎日文化賞正賞に舞踊家の宇根由基子さん。長年の八重山舞踊の保存・伝承への功績で。

平成7年度第28回 婦人の主張 中央大会で市職員お二人



県教育長賞に
田盛亜紀子さん
(商工課)



沖縄テレビ放送社社長賞
下地スエさん
(新栄町保育所)

平成7年度第12回女性の翼

高嶺 幸子

女性に関わる問題は、30年先進地であると事前研修したカナダ・米国の政府機関、公共施設、団体活動などを視察研修した。

自由の女神にその精神が象徴される自由が人権の基礎の社会、米国では、1848年第1回婦人人権会議が他国に先駆けてニューヨークでもたれ、カネカフォーラム宣言で、男女の平等、参政権が採択されている。

バランスよく男女が共生する社会の実現のためには、男性の理解と女性の努力が課題である。

この制度を活用して多くの方が、視野を世界に広げてほしい。(写真左から2人目高嶺さん)



★北京メッセージあれこれ★

北京会議は何だったのか。第4回国連世界女性会議・NGO（非政府組織）フォーラムに参加した人々は、今それぞれの立場で報告会をもって、次の行動のための作業にかかっている。

世界各国から約50,000人が参加した北京会議、ワークショップは約5,000。とても大きすぎてその全体像を掴むには、まだ時間がかかりそう。

今回の会議のテーマは、「平等・開発（発展）・平和への行動」。キーワードとされていたのは*エンパワーメント（力をつけること）、*女性の人権、*パートナーシップ。

とりわけ、女性のエンパワーメントは、先回に比べはるかに高くなったことと、女性の人権は即ち人権であることが確認された。採択された「世界行動綱領」は、2,000年に向けて女性の人権確立のために各国政府、関係機関が解決すべき具体策が示されている。その内容について学習し、実現への努力を重ねることが、これから大切な女性自身の課題としてある。

そして、世界中の女性が共通して共に叫び、連帯の意志表示をしたのが「ノー！」「モアー！」「ウォー！」。「戦争は絶対にいやだ」平和への女性の行動はまだまだ足りないということだった。

中国はトイレが怖いと聞いていた。身をさらして用を足さなければならぬ覚悟をしていた。NGOフォーラム会場へ行ってみると沢山の簡易トイレが備えつけられていて、その心配は全くないことが分かってほっとした。

しかし、フォーラムに参加した外国の私たちが入る度に、ホースで水を流して後始末をする沢山の中国の女性達の姿があった。女性会議場のこの現実をどうとらえるのかやりきれない思いがした。

お知らせ

「沖縄県育児・介護休業者生活資金貸付制度」

県が、育児休業または介護休業中の勤労者に対し、低利で生活資金の貸付けを行なう新制度です。借入申込みは、お近くの「ろうきん」へご相談下さい。

県労政福祉課 TEL 866-2328まで

女性講座いしがき'95が終わりました

7月25日～11月19日



第4回
講師
宮平エミ子氏



受講者の皆さん



第6回 開講式
石垣市長 大浦長照

—市職員女性行政研修会11月29日開催—

テーマ「女性（男性）問題を語る」

講師（財）おきなわ女性財団事務局長
県女性政策室副参事 太田守胤氏



表紙

まるごーは八重山方言で円座を意味する。老若男女の別なく円座になって情報を交換し未来を語り合うことを象徴して命名した。写真は、NGOフォーラム北京会場の一風景。

各国のワークショップは、それぞれテントと時間が割り振られていたが、人々はそれとは別に、自由に適当な空き地をみつけてコミュニケーションや討議をはじめた。通りすがって共感すれば、また輪が広がった。